

一般社団法人 安来青年会議所



ふれあい

題字 理事長 妹尾 匠

発行所
一般社団法人 安来青年会議所
理事長 妹尾 匠
安来市飯島町1240-3
☎ (22) 3038
編集 ふるさと安来創造委員会
編集長 矢田 敦子

一般社団法人 安来青年会議所
第五十代理事長 妹尾 匠

一年を振り返つて

師走の候、皆様方におかれましては益々のご清栄のことと存じます。平素より一般社団法人安来青年会議所の諸活動に際しましてご理解とご協力をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。理事長予定者から含めますと、昨年の8月ごろから今年の12月末までおよそ一年半、安来青年会議所の理事長として駆け抜けできました。振り返ればあつとう間の時間であり、本当に充実した時間でもありました。2016年度は創立50周年を迎えるとても重要な年であり、その年に理事長をさせていただくことに対する多くの不安がありました。しかし、私にはメンバーである仲間がいる事、そして多くの先輩方や関係者の皆様に支えられて一年間無事に理事長職を終える事ができました。

2016年度1月よりスローガンを「終わりなき挑戦」とさせていただきました。自己の成長や地域の発展には終わりはありません。ふるさと安來のため、子供たちのために先を見据えて、より良い方向へ進める事を意識し、挑戦し続けることが大切であるという気持ちを込めた、このスロー

ガンで一年間メンバーと共に青年会議所運動を開催してまいりました。

創立50周年を迎え、5月に創立50周年記念式典、記念祝賀会を開催いたしました。当日は多くの来賓の方々、先輩諸氏、県内外から各地青年会議所理事長をはじめ、メンバーの皆様にご出席いただき、盛大に開催することができました。50年の歴史の重みを感じるとともに、今まで以上に地域に根ざした青年会議所運動を開拓していくかなければならぬと強く決意した瞬間でもあります。また、10月には創立50周年記念事業として東国原英夫氏をお迎えし「スポーツによるまちづくり」をテーマにご講演いただきました。当日は多くの安来市民の皆様にご来場いただき、地域住民の皆様とともに、安來のまちづくりについて考えることができたすばらしい記念事業になりました。約一年間かけてメンバー全員で話し合いを重ねて実現した事業ではあります。が、本番当日に至るまでに、先輩方やご賛同頂いた地元企業の皆様のご協力あってこそ開催することができた事業もあります。当日皆様からいただいたアンケートは、これ

から安来青年会議所にとって貴重な財産であり、皆様からいただいた意見を取り入れ、今後の青年会議所運動に役立てていきたいと考えております。

そして、毎月の例会においては年当初より一般の方々に参加していただけるような例会事業をしたいと申しておりましたので、各委員長は青少年教育事業や地域活性化事業、また様々な事業を開拓してくれました。詳しくは委員長『一年を振り返つて』をご覧いただきたいと思いますが、本当に一年間貴重な経験ができました。この経験は今年だけではなく仕事や家庭、そしてこれから青年会議所をよろしくお願いいたします。

すべての皆様に重ねてではございますが感謝申し上げお礼の言葉とさせていただきます。一年間本当にありがとうございました。2017年度も変わらず一般社団法人安来青年会議所をよろしくお願いいたします。

最後に、本年度お世話になりました所運動に役立てていきます。
改めてこの一年を振り返つて強く想うことは、「人生において人は様々な決断を迫られる。出した答えが正しいか間違っているか悩むのではなしく、出した答えが正しいと信じて突き進むことが大切あるということ」であります。決断する勇気を持ちながら今後も歩んでいきたいと思います。

(一社)安来青年会議所への
お問い合わせ・ご質問・ご要望は

(一社)安来青年会議所事務局

〒692-0014 安来市飯島町1240-3

TEL0854-22-3038 FAX0854-22-3293

対応時間:月曜日・水曜日・金曜日(9:00~16:00)

E-mail:yasugi-jc@galaxy.ocn.ne.jp http://yasugi-jc.sakura.ne.jp

広報誌『ふれあい』についてのご感想・ご要望もお待ちしております。

「ふれあい新年号」は

左記の皆様の

ご協賛をいただき、
発行いたしました。

(有)カムラのハマダ
(株)セノオ
(有)中田建設
まるいち木工
(株)木下工務店
(有)喜多川板金
アクリアシステム(株)
山陰酸素工業(株)
矢田醤油店
(有)丸和運輸
(有)山陰UP販売
(有)増本土建
遠藤社会保険労務士事務所
D-アシスト

(順不同)

一年振り返つて

青少年未来創造委員会



委員長 浅野周作



2016年度、青少年未来創造委員会の委員長を務めさせていただきました。当委員会では4月、9月の例会事業、および10月の安来市長選挙立候補予定者公開討論会を担当させていただきました。

4月例会では、「真実を見抜く力『メディアリテラシー』の必要性」と題して例会事業を行いました。松江市立秋鹿小学校教諭 NIE(教育に新聞)アドバイザーの福間敏之様を講師としてお迎えし、メディアリテラシーの重要性についてご講演を行つていただきました。

情報伝達技術の発展による高度情報化社会の中で、青少年が大量の情報に接する機会、また情報を発信する機会が大幅に増加した一方、インターネットやSNS等で流れる情報を

鵜呑みにしたり、モラルの無い行動をアップして「炎上」を起こしたりする等の問題が発生しています。ご講演では、SNSでの軽率な言動が一生を棒に振る危険性をはらんでいること、情報を活用することで自身も他人も不幸にしない生き方につながること、子どもの「なぜ?」「なに?」という問い合わせ保護者が一緒にになって考えることが主体性を育むこと等を分かり易くご説明していただきました。

十分に与えられているとはいえない現状があります。

そこで、自分で色々工夫しながら独自のものを作ることができるプロックを使用した事業を考え、またテーマ題材として、安来青年会議所が早期実現に向けて継続的に安来市民の皆様への運動を行つて中海架橋を選択いたしました。

三連休の最終日の開催となりましたが、想定のほぼ倍となる九十七名もの市民の皆様にご参加いただきました。子ども達にも、また保護者の方々にもご好評をいただき、まことに嬉しく思つております。

少子高齢化社会の中、青少年の能力や感性を伸ばすことはさらに重要性を増していくものと考えます。青少年が秘めた大きな可能性を引き出し、また保護の方々が子ども達への教育を行う上での理念や手法、ポイントを考えいただきました。今後も創意工夫を重ね運動を開拓していく所存でございます。

今年一年間ありがとうございました。



この度十月の安来市長選挙では現職の近藤宏樹氏が再選され、三期目となる安来市政に取り組まれることとなつた。現代日本が抱える問題のまさに縮図であるような安来市において、近藤市長には引き続き市政の難しい舵取りを期待したい。

さて、トランプ現象でも話題になつた。現実は非常に残念ではあるが、時期を同じくしてアメリカ合衆国の大統領選挙で実業家のドナルド・トランプ氏が初当選した。個人的な見解からすると予想外ではあったが、米国大統領選挙では連日連夜候補者はメディアなどの公開の場に出演し、対立候補者との政策の違いや優位性を主張する民衆に訴えている。その結果、米国民は自分たちの未来をトランプ氏に託すだけの政策の優位性を見出しからう。しっかりと現実と理想を見極められたのか、大国アメリカ合衆国の主権者意識が試されるところである。

一方、安来市長選挙においては現職の近藤宏樹氏が無投票で再選かと思われたが、対抗馬として葉田茂美氏が滑り込みで立候補をされた。しかし遅すぎた立候補により選挙行動に繋げるだけの明確な政策情報が選挙活動を通じて広く提供できなかつたと言わざるを得ない。これでは候補者同士の政策の違いや優位性を主権者に見極めてもらうことには非常に困難である。勝手申し上げ恐縮であるが、陣営としては選挙戦を勝ち抜くための戦略だったのかもしれないが、本来であればもうどんもしれないが、本気で安來のリーダーに市民に対して本気で安來のリーダーになろうとする人間として近藤宏樹氏と政策で戦う覚悟を見せていただきたい。

また、安来青年会議所は八年前と四年前、そして今年十月にも公開討論会の開催を目指し、各候補者と接触してきました。米国大統領選挙をみれば明らかであるが、主権者が各候補者の政策やビジョンの違いを客観的に比較するためには、候補者による討論会がもっとも明快であり、候補者がどんな人間で、どんな価値観を持ち、どんな思考

をする人なのかを白日の下に晒すことが重要である。今年十月に開催を予定していた公開討論会においては地元ケーブルテレビの全面協力も得て多くの市民に政策の発表ができると期待していた。現実は非常に残念ではあるが、各候補者(今回は近藤宏樹氏が参加、葉田茂美氏が不参加)の足並みが揃わず開催に至ることができなかつた。安来青年会議所では三期連続で公開討論会の企画を提案し続けているが依然として候補者の足並みを揃えることができず開催に至ることができない。企画者側としても各候補者に公開討論会の必要性を伝えきることができていない反省点も少なからずあるが、今や全国各地で開催され、松江市や米子市などの近隣でも公開討論会が当たり前のように行われているにも関わらず、安来市だけ開催できない旧慣依然とした現状である。

市民が政治や行政を身近な物として捉え、主権者意識を持つまちづくりに参画する理想の形を見据えるとすれば、候補者の政策に触れ、考究する絶好の機会と捉えてほしい。

我々安来市民には、自らの手によって選択する機会を提供することは責務であり、各候補者においては自信に満ちた魅力ある政策を見据えるとすれば、候補者の政策に触れ、考究する絶好の機会と捉えてほしい。

我々安来市民には、自らの手によって選挙戦を勝ち抜くための戦略だったのかもしれないが、本来であればもうどんもしれないが、本気で安來のリーダーに市民に対して本気で安來のリーダーになろうとする人間として近藤宏樹氏と政策で戦う覚悟を見せていただきたい。

結びに、我々青年会議所は、まちづくり団体として率先してこのまちのことを考え、行動できる國民主権の確立への関心を取り戻すことで、愛する郷土安来市の更なる発展に繋がることだと確信して止まない。

結びに、我々青年会議所は、まちづくり団体として率先してこのまちのことを考え、行動できる國民主権の確立への関心を取り戻すことで、愛する郷土安来市の更なる発展に繋がることだと確信して止まない。

民意識醸成の場として公開討論会の開催を今後も積極的に企画提案して



本年度初めての委員長を務めさせていただきました。まちづくりを担当する委員会として、出来るだけ多くの市民の方が改めて安来を好きになつて貰いたいという気持ちを持ってこの一年間運動をしてきました。当委員会では3月、6月、7月の例会事業を担当させていただきました。3月例会事業では「安来といえば○○」といった安来の良く知られているものや場所を題材にクイズを行いました。ただのクイズではなく、関係者の方に委員会メンバーで直接話を聞いたり、現地に行ったりして、その場所に行つてみないと分からぬ、食べてみないと分からぬ、など様々な答えになるよう、かなりマニアックな内容のクイズになりました。参加者の皆様には、今まで知つているようで知らなかつた安来の新たな魅力に気付いて貰えた楽しい雰囲気の例会事業でありました。

6月例会では男性と女性の考え方の違いやエーモアをまちづくりに上手く活かしてみようといった内容で事業を行いました。まずは男女それぞれの考え方を生の声を聞くことで受け止め、それを理解した上でお互いの良さを活かして安来のまちづくりについての具体案をグループで考えていました。出てきたものは非常にユニークな案で、本当に実現出来たら面白いようなアイデアばかりでした。男女それぞれの考え方が違うことが良くて、それを融合させることで、より面白いユニークなアイデアが生まれることを実感していただけた例会事業だったと思います。

7月は安来青年会議所メンバーの家族の皆さんとの交流事業を行いま



また、例会以外にも委員会事業として現在整備が進められている「月山富田城跡」に注目し、その価値やこれから安来の観光地としての期待を高めていただけるようなPR番組を作りました。テレビさんと作り、放送していただきました。番組内容を作り上げる上で、安来市の職員の方々をはじめ、安来節演芸館やすぎアートアカデミーの皆さんなど多くの方にご協力いただき完成させることができました。番組の中で市民の夢を紹介するコーナーがあったのですが、6月例会事業時に出していただいたまちづくりのアイデアをここでいくつか出

一年振り返って

ふるさと安来創造委員会

委員長 矢田敦子



した。日頃我々がまちづくりやひとりの運動を行っていく上で様々な方に協力していただいております。そして、「一番身近な存在である家族にも勿論協力をしてもらっています。普段なかなか伝えることの出来ない「ありがとうございました」という感謝の気持ちを、交流事業を通じて家族の皆さんに伝えることができた楽しい交流事業でした。



させていただき、その中のアイデアの一つであった「当時の様子を再現したようなイベントの実施」を実際に水鉄砲合戦という形で実現させました。安来の魅力をただ知つてもらうだけではなく、今以上に今後盛り上げていく為にはどうしたらいいのか?じゃあこんな事をしたら面白いんじゃないだろうか?そして、それを実際にやってみて、見ていてる側にも「今度は自分も参加してみたい!もっと知りたい!」と感じてもらおうというところまで実現できました。

本年度の例会事業や運動を通して改めて「自分達のまちは自分達で作る」ということを強く実感しました。沢山の方々と話をし、協力し合うことを通して、人と人の繋がりの大切さ、自分達の住むまちを想う事の大切さを深く学び、成長出来た一年となりました。引き続き市民の皆様が

自分の住むまちをもつと知り、もつと好きになつてもらえるような運動ができるように、来年度にしっかりと繋げていきたいと思います。一年間ありがとうございました。



委員会事業にご協力いただきました方々に深く御礼申し上げます

- ・安来市 教育委員会 文化課 様
- ・安来市 広瀬地域センター 出雲尼子を興す会 手づくり鎧かぶと部会 様
- ・安来市 広瀬交流センター 様
- ・安来節演芸館 やすぎ・アート・アカデミーの皆様
- ・(有)カメラのハマダ 様





記念式典並びに祝賀会を開催いたしました。先輩諸兄にとりましても大きな喜びにわたり運動を展開されてこられた方々に御臨席いただき盛大に開催出来たことは、現役メンバーのみならず、これまで50年という永き間にわたり運動を展開されてこられた方々にとりましても大きな喜びとなりました。

記念式典の会場は、清水寺の光明閣にて開催いたしました。清水寺での式典開催に際しては、ご臨席いただきた県内外の青年会議所メンバーの皆様には境内を散策していただき、安来のすばらしい財産の一つである清水寺の魅力を肌で感じていただけました。1400年あまりに渡る歴史ある清水寺での式典は、莊厳な空気のなか創立50周年に相応しい式典となり多くの方のご尽力により開催できることであると感謝しています。

記念式典終了後は安来体育館にて記念祝賀会を開催いたしました。安来しさをコンセプトに安来で採れた食材を使った料理など、安来の飲食店の方々に料理の腕をふるつてい

2016年度、創立50周年運営会議の議長を務めさせていただきました。一般社団法人安来青年会議所は1966年(昭和41年)に設立し、本年創立50周年という記念すべき節目の年を迎えることができました。創立50周年を迎えるにあたり記念ブルーフォンペ、記念式典並びに記念祝賀会、記念事業と、一年を通しての開催となりました。

5月22日に創立50周年記念式典並びに記念祝賀会を開催いたしました。記念式典並びに記念祝賀会に於いては、ご来賓の方々、県内外の各地員会議所のメンバー、並びに先輩諸兄と多くの方々に御臨席いただき盛り上がりでございました。

記念式典の会場は、清水寺の光明閣にて開催いたしました。清水寺での式典開催に際しては、ご臨席いただきた県内外の青年会議所メンバーの皆様には境内を散策していただき、安来のすばらしい財産の一つである清水寺の魅力を肌で感じていただけました。1400年あまりに

この式典並びに祝賀会、そして記念事業と開催するための準備を進める上で、私たちは、先輩諸兄が築いてこられた50年という歴史と向き合いました。今日までの歴史を振り返ると、先輩諸兄の熱い情熱と市民の皆様の愛情が50年分詰め込まれています。このような歴史のある団体に在籍し、創立50周年という節目の年に実行委員長として携わることができたことに身が引き締まる思いと共に、何事にも代えられない大きな経験を与えていただいたと事は、一生忘れる

を感じいただけたのではないかと感じております。

50年という歴史を今まで築いてこられたのも、私たちの運動に共感し、協力していただいた市民の皆様、そして行政、各諸団体の皆様のおかげだと感謝申し上げます。そして、安来を想う気持ちを行動に移してこられた先輩諸兄の弛まぬ努力に敬意を払うとともに、今まで築き上げられた信頼と歴史を途絶えることなく受け継いでまいります。



この式典並びに祝賀会、そして記念事業と開催するための準備を進める上で、私たちは、先輩諸兄が築いてこられた50年という歴史と向き合いました。今日までの歴史を振り返ると、先輩諸兄の熱い情熱と市民の皆様の愛情が50年分詰め込まれています。このような歴史のある団体に在籍し、創立50周年という節目の年に実行委員長として携わることができたことに身が引き締まる思いと共に、何事にも代えられない大きな経験を与えていただいたと事は、一生忘れる

事ができない経験となりました。創立50周年の事業を開催するにあたり、この一年間は本当に多くの方々の協力により開催する事ができました。一年間ありがとうございました。

また、10月23日には創立50周年記念事業として「安来をどげんかせんといかん」スポーツ振興によるまちづくり」と題し、安来高等学校体育馆にて、東国原氏による講演会そして、スポーツを通して安来で活動されている有識者の方々による公開質問会と構成し開催いたしました。自分達のまちは自分達でつくる、こうした想いをもとに安来の誇れる地域の資源でもあるスポーツを通じ、市民参加型のまちづくりの大切さを市民の方々にご来場いただき盛大に開催されました。記念事業に於きましても、多くの方々にご来場いただき盛り上げることができました。開催にあたり多くのスポーツ関係者の方々にご相談、話を聞いていただき、また多くの企業から賛賛をいただき、会場となつた安来高校では先生方、生徒さんの協力により開催に漕ぎ付くことができた事、感謝申し上げます。

一年振り返って

創立50周年運営会議
議長遠藤章



この式典並びに祝賀会、そして記念事業と開催するための準備を進める上で、私たちは、先輩諸兄が築いてこられた50年という歴史と向き合いました。今日までの歴史を振り返ると、先輩諸兄の熱い情熱と市民の皆様の愛情が50年分詰め込まれています。このような歴史のある団体に在籍し、創立50周年という節目の年に実行委員長として携わることができたことに身が引き締まる思いと共に、何事にも代えられない大きな経験を与えていただいたと事は、一生忘れる

事ができない経験となりました。創立50周年の事業を開催するにあたり、この一年間は本当に多くの方々の協力により開催する事ができました。一年間ありがとうございました。

また、10月23日には創立50周年記念事業として「安来をどげんかせんといかん」スポーツ振興によるまちづくり」と題し、安来高等学校体育馆にて、東国原氏による講演会そして、スポーツを通して安来で活動されている有識者の方々による公開質問会と構成し開催いたしました。自分達のまちは自分達でつくる、こうした想いをもとに安来の誇れる地域の資源でもあるスポーツを通じ、市民参加型のまちづくりの大切さを市民の方々にご来場いただき盛大に開催されました。記念事業に於きましても、多くの方々にご来場いただき盛り上げることができました。開催にあたり多くのスポーツ関係者の方々にご相談、話を聞いていただき、また多くの企業から賛賛をいただき、会場となつた安来高校では先生方、生徒さんの協力により開催に漕ぎ付くことができた事、感謝申し上げます。